

再考察！機能と審美を両立された 歯科治療へのトータルアプローチ

～若手4人からの提案～

座長 愛知県歯科医師会 小野寺 良 修

愛知県歯科技工士会 鬼頭寛之・近藤悠司
鈴木宏輔・三浦大輔

審美性に優れ長期的予後を目標とした補綴物を製作する際には、色調 (Color)、形態 (Morphology) はもとより、もちろん機能 (Function) や生体親和性 (Biology) にも十分に配慮する必要がある。その中でも機能とは多様であり、切断・粉碎のような消化機能の機械的な面での働きに加えて、口腔内の保湿、咬合高径による気道の確保、発音や会話あるいは顔貌との調和などの審美的な面も機能と言える。また、これらの機能を果たすためには、口腔内の状態を正確に模型へ再現を行うことが重要である。特にインプラント症例などにおいてはインデックス模型を用いることにより緻密な適合精度が得られる。

生体親和性においては、マテリアルセレクションというのも長期的予後を目標とする上で重要なポイントとなる。近年歯科業界における CAD/CAM システムも飛躍的に進歩をしており各種マテリアルをも選択できる様になった。その中でもファイナルレストレーションにおいては CAD/CAM システムを用いてコーピングを機械的に削り出す方法。または手作業によってワックスアップし埋没、鋳造をしてコーピングを製作する2手法から選択できるのは唯一 Co-Cr 合金のみである。それだけ Co-Cr 合金焼き付けポーセレンの国内での需要が高まっていることが想像するに容易である。理由として、近年の貴金属系ポーセレン焼き付け金属価格の高騰が挙げられる。Co-Cr 合金のポーセレン焼付け合金はドイツをはじめとするヨーロッパでは以前から採用されており、日本国内においても4年程前から増加傾向である。ジルコニアレストレーション (PFZ) においては、日本国内の薬事が認可されて早いもので7年が経過する。従来の審美性の高い補綴物と比較しても PFZ はいまや審美性の高い補綴物が獲得しやすいのはもちろんのこと、口腔内での補綴物生存率が PFM 同等、もしくはそれ以上の安心感があるマテリアルと考える。

今回の講演では歯科医師の小野寺先生を座長としてお迎えし、これらのテーマをもとに機能と審美を両立させた補綴に関するトータルアプローチとして中部地区若手歯科技工士4人からポイントを絞って提案させていただきます。